

## 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
 このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、  
 ご利用いただきたくご案内いたします。  
 当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を  
 重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほ  
 どよろしくお願い申し上げます。

謹白

### 記

■ 実施日 2020年6月8日(月) ご依頼分より

### ■ 新規項目内容一覧

項目 コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
R609 9	ロイシンリッチα2 グロブリン (LRG) <small>5C245-0000-023-062</small>	血清 0.5	S09 ↓ A00 (X)	冷蔵 (28日)	2~4	276 ※4	ラテックス 凝集免疫法	16.0未満 (カットオフ値) (μg/mL)	裏面参照   &3

※4：生化学的検査（I）判断料



## ● ロイシンリッチ $\alpha$ 2グリコプロテイン (LRG)

炎症性腸疾患における活動期の判定補助に有用な検査です。

ロイシンリッチ $\alpha$ 2グリコプロテイン (Leucine-rich alpha 2 glycoprotein : LRG) は、ロイシンリッチリピートと呼ばれるドメインを8つ含む約50kDaの糖蛋白質で、炎症局所で産生される新規血清バイオマーカーです。

特に潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患 (Inflammatory bowel disease : IBD) においては、内視鏡検査による疾患活動性評価とLRG値が相関することから、侵襲性の低い検体検査で簡便に評価することが可能となります。

また、LRGはTNF $\alpha$ 、IL-22といったIL-6以外のサイトカインで引き起こされる炎症でも発現するため、CRPが正常範囲内の症例における活動性評価に有用です。臨床指標とCRP、LRGの組み合わせ測定では単独測定に比べ、活動期の病態検出感度が高くなることも報告されています。

IBDにおける活動期の判定補助やモニタリング、治療選択の一助としてご活用ください。

### ▼疾患との関連

潰瘍性大腸炎  
クローン病

### ▼関連する主な検査項目

C反応性蛋白 (CRP) 定量  
便中カルプロテクチン  
NUDT15遺伝子codon139 多型解析

### ▼検査要項

検査項目名	ロイシンリッチ $\alpha$ 2グリコプロテイン (LRG)
項目コードNo.	R609 9
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	ラテックス凝集免疫法
基準値	16.0未満 (カットオフ値) ( $\mu\text{g}/\text{mL}$ )
検査実施料	276点 (「D003」糞便検査「9」)
判断料	144点 (生化学的検査 (I) 判断料)
備考	炎症性腸疾患の活動期の判定の補助における参考基準値は16.0 $\mu\text{g}/\text{mL}$ です。感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍においてLRG値が上昇することがありますのでご注意ください。 <span style="float: right;">&amp;3</span>

### ●参考文献

高山 茂雄, 他: 医学と薬学 76 (12) : 1769~1780, 2019. (検査方法参考文献)  
藤本 穰, 他: 医学のあゆみ 270 (13) : 1215~1216, 2019. (臨床的意義参考文献)